

英語を母語とする日本語学習者の 外来語と異文化受容に対する態度

堀切 友紀子

学位取得年月：平成 24 年 9 月

取得学位名：博士(人文科学)

学位授与機関名：お茶の水女子大学

【キーワード】 外来語、英語母語話者、日本語学習、異文化受容態度

【要旨】

平成 14 年から 18 年にかけて、国立国語研究所「外来語」委員会が、外来語言い換え提案を発表していることに併せて、外来語は日本語学習者にとっても「難しい」「苦手な」ことばとして扱われている。しかし、英語圏出身の日本語学習者の、外来語学習に関わる意識やそれらに影響を与える影響要因が具体的に明らかになっていない。本研究では、英語と日本語という複数の要素を持つ外来語に対する意識を通して、英語を母語とする日本語学習者の心理的な側面や異文化受容との関連を明らかにすることを目的とした。

第 1～3 章は文献研究である。第 1 章では、外来語理解・使用には日本語母語話者間にも個人差・世代差が存在すること述べ、接触言語学の視点から外来語は文化理解においても影響を及ぼしていることを述べた。第 2 章では、本研究の対象者の出身国であるアメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリアの多文化社会における教育の実態を取り上げ、それぞれの社会において言語観や外国語学習態度に「英語」が影響を与えていることを明らかにした。第 3 章では、異文化受容態度の定義を明らかにした上で、滞日留学生の異文化受容研究を概観し、第二言語能力が異文化受容に影響を与えていることを論じた。

それを受け、第 4～7 章では、当該研究対象者に実証的研究を行なった。第 4 章では、質問紙を用いた量的調査及び統計分析を行い、外来語に対する苦手意識と受容態度の構造を明らかにした。第 5 章では、面接調査をもとに英語母語日本語学習者の来日後の外来語に対する感情の典型例を明らかにした。対象者の外来語受容態度を形成する感情には好意的・非好意的なものが存在し、外来語に対する感情の来日後の変化の有無をもとに 4 類型に分類し説明した。第 6 章では、面接調査をもとに対象の外来語に対する認識・感情・行動を質的に分析し、外来語を英語もしくは日本語でとらえた場合で外来語に対する感情や使用行動に相違が生じる傾向を明らかにした。さらに、第 7 章では、外来語に対する認識・感情・使用行動と異文化受容態度との関連について質問紙調査の結果をもとに統計分析を行った結果、外来語に対する違和感や日本語能力、外来語と和語の使い分け行動が異文化受容態度と関連する傾向を示した。

以上のことから、日本語学習者の外来語に対する意識や態度は、異文化受容態度と関連するという実態が明らかになったが、第 8 章ではそれについて外来語学習に困難を抱える学習者という視点から議論し、外来語を自文化の枠組みで捉える視点が影響を及ぼしている可能性が検討された。本研究の意義は、外来語に学習者の意識が具体的に解明されたことにより、英語を母語とする学習者の言語学習場面での外来語に対する感情や使用行動が、異文化受容態度を予測する指標となる可能性、また、外来語が異なる言語や文化を理解する上での媒介となる可能性が示唆された。今後は、異文化受容態度の測定方法の精緻化と、縦断的・横断的など多様な観点からの総合的解釈の必要性がある。

(ほりきり ゆきこ)